

協働のまちづくりに関する 区民意識調査 報告書



平成 22 年 9 月
(平成 22 年 6 月実施)
豊 島 区

目 次

I. 調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査の設計	1
3 調査内容	1
4 回収結果	1
5 基本的な表記等	1
6 回答者の基本属性	2

II. 調査結果

第1章 豊島区の印象について	7
1-① 住み心地〔問1〕	7
1-② 住み心地の変化〔問1-2〕	10
1-③ 住み心地の変化の理由〔問1-3〕	13
2 定住意向〔問2〕	17
3 地域への愛着〔問3〕	20
第2章 地域の生活環境について	23
〔設問設定の考え方〕	23
1 目指すべき生活環境に対する「最近の評価」〔問4〕	26
① 福祉	26
② 健康	27
③ 子育て	28
④ 教育	29
⑤ コミュニティ・協働	30
⑥ 環境	31
⑦ 都市再生	32
⑧ 安心・安全	33
⑨ 観光・産業	34
⑩ 文化	35
● グループ全体を通して見た「最近の評価」	36
2 目指すべき生活環境に対する「今後の優先度」〔問4〕	37
① 福祉	37
② 健康	38
③ 子育て	39
④ 教育	40
⑤ コミュニティ・協働	41
⑥ 環境	42
⑦ 都市再生	43
⑧ 安心・安全	44

⑨ 観光・産業	45
⑩ 文化	46
3 「最近の評価」と「今後の優先度」をクロスさせた総合分析〔問4〕	47
① 福祉	48
② 健康	50
③ 子育て	52
④ 教育	54
⑤ コミュニティ・協働	56
⑥ 環境	58
⑦ 都市再生	60
⑧ 安心・安全	62
⑨ 観光・産業	64
⑩ 文化	66
4 総合分析の経年比較〔問4〕	68
① 福祉	68
② 健康	69
③ 子育て	69
④ 教育	70
⑤ コミュニティ・協働	70
⑥ 環境	71
⑦ 都市再生	71
⑧ 安心・安全	72
⑨ 観光・産業	72
⑩ 文化	73
第3章 区の政策について	75
1-① 区の情報を知るための手段〔問5〕	75
1-② 広報紙の入手方法〔問5-1〕	77
1-③ 豊島区公式ホームページを見るための手段〔問5-2〕	79
2 行政情報番組の視聴経験〔問6〕	80
3 豊島区の「セーフコミュニティ」活動について〔問7〕	81
4 事故やけが、犯罪、災害などに対する安心感について〔問8〕	83
5 生活の中の不安の変化について〔問9〕	86
6-① 過去1年間のなかで最も印象に残っているけがや事故〔問10〕	87
6-② けがや事故、ヒヤリ体験の内容と場所〔問10-1〕	89
7 近所の方との付き合いの程度〔問11〕	93
8 地域の安全・安心を守るために重要になること〔問12〕	101
9 区政全般への要望〔問13〕	104
● 総合分析	111
Ⅲ. 調査票	113

I. 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、区民をはじめ、町会や自治会、商店街、NPO、企業、学校など、地域の多様な主体との協働を基本とした新しい区政運営を実現するため、区民の地域の生活環境や身近なまちづくりへの参加・協働のあり方等についての意見や要望を把握し、これからの計画づくりや行政サービスのあり方の検討、区民との協働の仕組みづくり等に活用するための基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査の設計

- (1) 調査区域：豊島区全域
- (2) 調査対象：区内に2年以上在住する18歳以上の区民
- (3) 標本数：区民 5,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳から区内を5地域に分割し、各地域より1,000人を無作為抽出
- (5) 調査方法：自記式調査票による郵送配布・郵送回収
- (6) 調査時期：平成22年6月10日（木）～ 6月30日（水）

3 調査内容

- 豊島区の印象について
- 地域の生活環境について
- 区の政策について
- 調査対象者の基本属性について

4 回収結果

発送数	回収数	回収率
5,000件	2,040件	40.8%

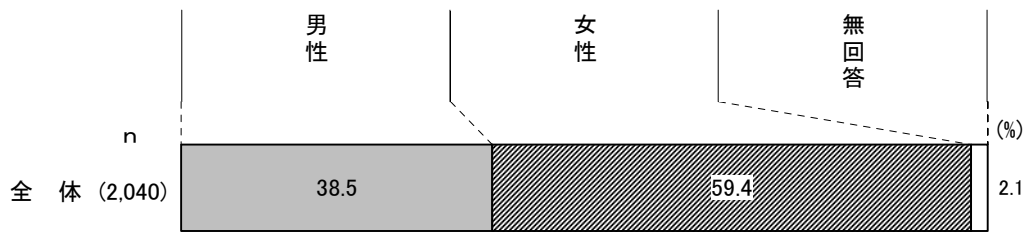
5 基本的な表記等

- (1) 図・表中のnとは、設問や選択肢に対する回答者数のことである。
- (2) 回答は百分率で算出している。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体の示す数値と一致しないことがある。
なお、回答者を絞った設問では、設問該当者を100%としている。
- (3) 図・表中の“—”は当該選択肢を選んだ回答者がいないことを示す。
- (4) 複数選択肢ができる設問では、回答者比率の合計が100%を超える。なお、その場合には、グラフ中に「※2つ選択」や「※あてはまるものすべて選択」などと記載している。
- (5) 図・表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合がある。

6. 回答者の基本属性

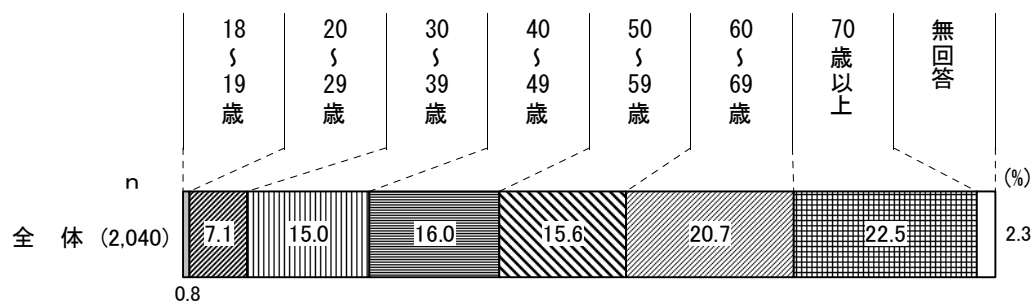
(1) 性別

- 「女性」が約6割、「男性」が約4割である。



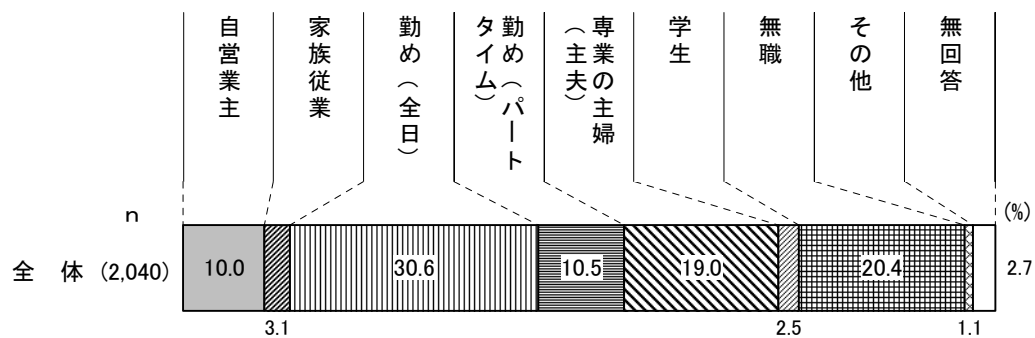
(2) 年齢

- 「60歳代」と「70歳以上」がそれぞれ2割を超えており、次いで「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」がほぼ同数で続いている。「18～29歳」は1割未満である。



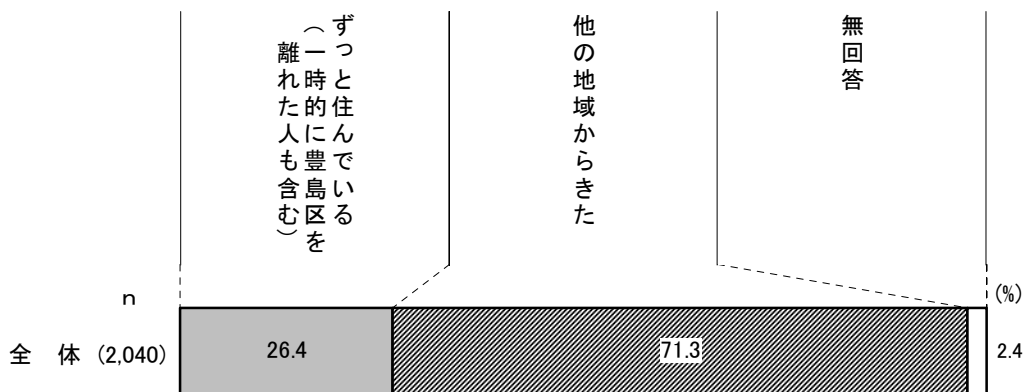
(3) 職業

- 「勤め（全日）」(30.6%)が最も高く、「無職」(20.4%)、「専業の主婦（主夫）」(19.0%)が次いでいる。



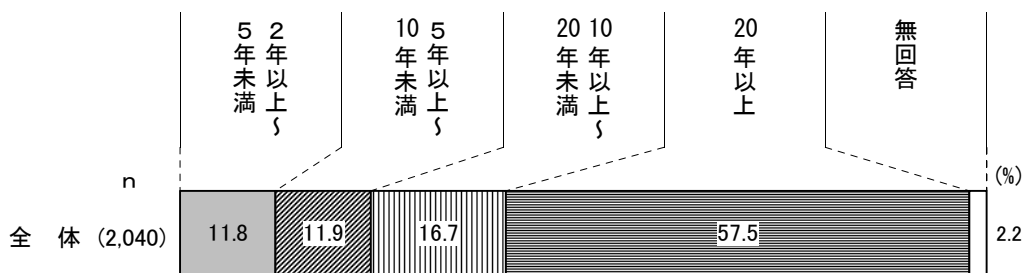
(4) 居住歴

- 「他の地域からきた」が7割を超え、「ずっと住んでいる（一時的に豊島区を離れた人も含む）」は2割台半ばである。



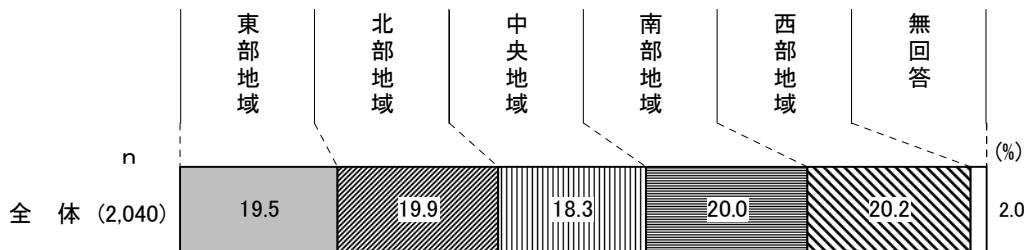
(5) 居住年数

- 「20年以上」(57.5%)が最も高く、「10年以上～20年未満」が1割台半ばで次いでいる。「5年以上～10年未満」と「2年以上～5年未満」はほぼ同数となっている。



(6) 居住地域

- 5地区区分では、東部 (19.5%)・北部 (19.9%)・中央 (18.3%)・南部 (20.0%)・西部 (20.2%)とそれぞれの地域が約2割である。

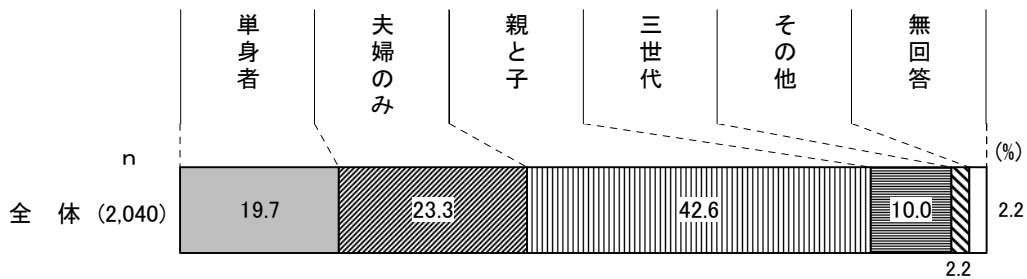


注) 5地区の町丁構成

- 東部地域 (駒込、巢鴨、北大塚1・2丁目、南大塚)
- 北部地域 (西巢鴨、北大塚3丁目、上池袋、池袋本町)
- 中央地域 (東池袋、南池袋1・2丁目、西池袋1・3・5丁目、池袋)
- 南部地域 (南池袋3・4丁目、西池袋2・4丁目、雑司が谷、高田、目白)
- 西部地域 (南長崎、長崎、千早、要町、高松、千川)

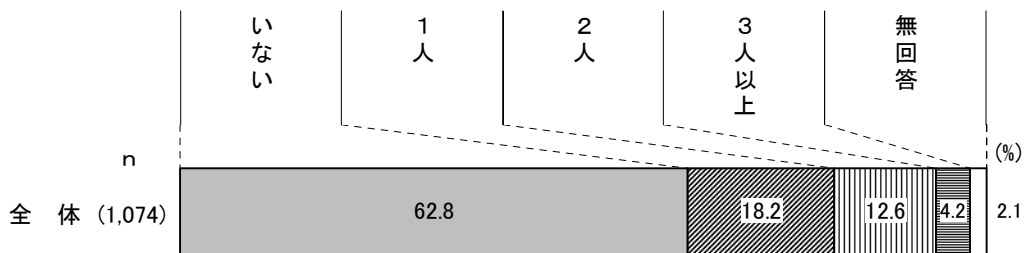
(7) 世帯構成

- 「親と子」の世帯構成が4割を超えて最も高く、次いで「夫婦のみ」が2割台半ば、「単身者」が約2割で続いている。「三世代」は1割である。



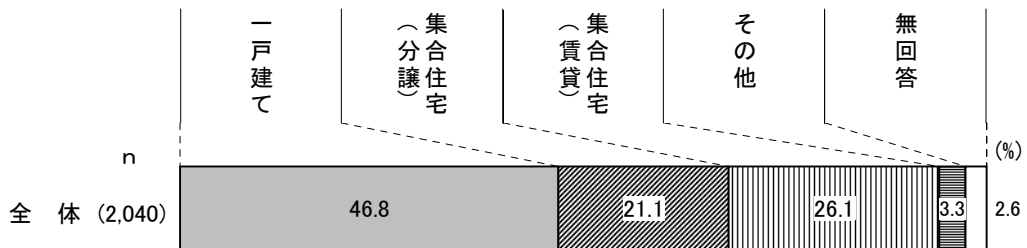
(8) 中学生以下の子どもの有無

- 「親と子」及び「三世代」の世帯構成のうち、「(中学生以下の子どもは) いない」が6割を超えている。
- 中学生以下の子どもの数は、「1人」が最も高く、「2人」、「3人以上」の順である。



(9) 住まい形態

- 「一戸建て」が4割台半ばと最も高く、「集合住宅(賃貸)」(26.1%)、「集合住宅(分譲)」(21.1%)と続いている。



《今回調査と前回（平成19年度）調査の回答者の基本属性比較》

(%)

		平成22年度 調査(今回) (n=2,040)	平成19年度 調査(前回) (n=1,471)
①性別	男性	38.5	37.5
	女性	59.4	60.0
	無回答	2.1	2.4
②年齢	18～19歳	0.8	1.1
	20～29歳	7.1	8.2
	30～39歳	15.0	15.8
	40～49歳	16.0	16.2
	50～59歳	15.6	19.4
	60～69歳	20.7	18.4
	70歳以上	22.5	19.1
	無回答	2.3	1.8
③職業	自営業主	10.0	11.2
	家族従業	3.1	3.1
	勤め(全日)	30.6	35.1
	勤め(パートタイム)	10.5	9.7
	専業の主婦(主夫)	19.0	23.9
	学 生	2.5	3.1
	無 職	20.4	
	その他	1.1	10.6
	無回答	2.7	3.3
④居住歴	ずっと居住	26.4	31.1
	他の地域から	71.3	66.3
	無回答	2.4	2.6
⑤居住年数	2年以上～5年未満	11.8	9.9
	5年以上～10年未満	11.9	13.2
	10年以上～20年未満	16.7	15.0
	20年以上	57.5	60.2
	無回答	2.2	1.8
⑥居住地域	東部地域	19.5	20.7
	北部地域	19.9	19.6
	中央地域	18.3	16.3
	南部地域	20.0	21.3
	西部地域	20.2	20.1
	無回答	2.0	2.0
⑦世帯構成	単身者	19.7	19.0
	夫婦のみ	23.3	22.1
	親と子	42.6	45.0
	三世代	10.0	10.2
	その他	2.2	2.1
	無回答	2.2	1.6
⑧中学生以下の 子どもの有無	いない	62.8	67.4
	1人	18.2	15.1
	2人	12.6	11.0
	3人以上	4.2	3.4
	無回答	2.1	3.1
⑨住まい形態	一戸建て	46.8	49.0
	集合住宅(分譲)	21.1	20.0
	集合住宅(賃貸)	26.1	25.2
	その他	3.3	4.4
	無回答	2.6	1.4

注) 平成19年度調査は、平成19年8月実施の「協働のまちづくりに関する区民意識調査」の回答結果である。